

平瀬川河川整備計画（素案）

合流部対策

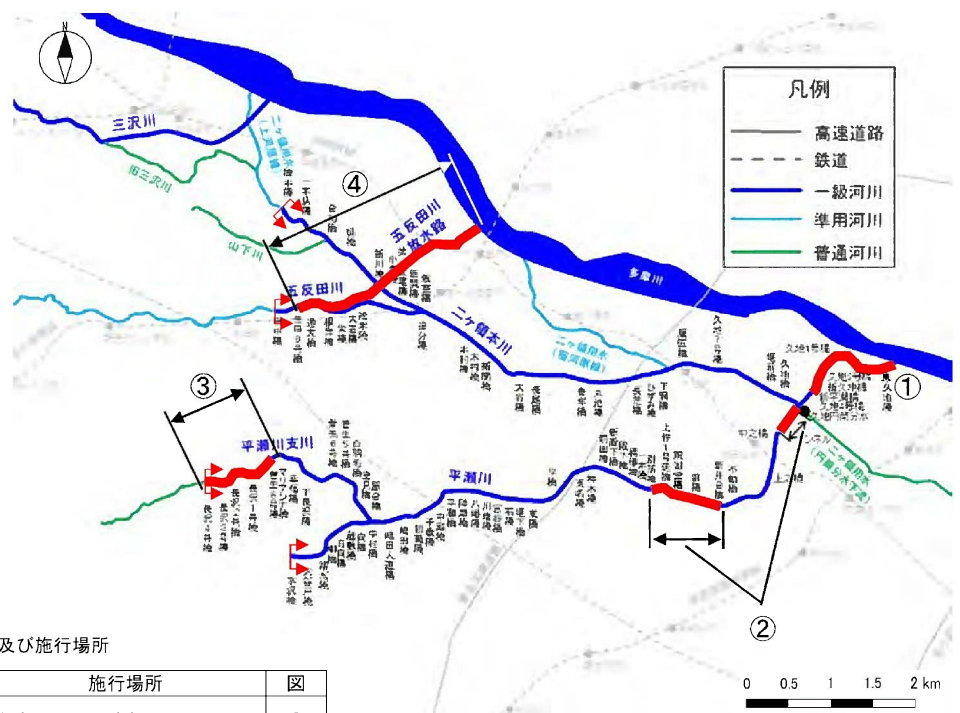


表 4-1 河川工事の種類及び施行場所

河川名	種 別	施行場所	図
平瀬川	合流部対策 (堤防嵩上、橋梁架替)	多摩川本川合流部	①
	施設機能向上 (耐震対策)	平瀬川トンネル	②
		新井台橋～別所橋	
平瀬川支川	河道整備 (護岸整備、河道拡幅、河道掘削、 橋梁架替)	あゆみ橋～長沢4号橋	③
五反田川 放水路	放水路整備	多摩川～生田8号橋上流	④

図 4-1 施行位置図

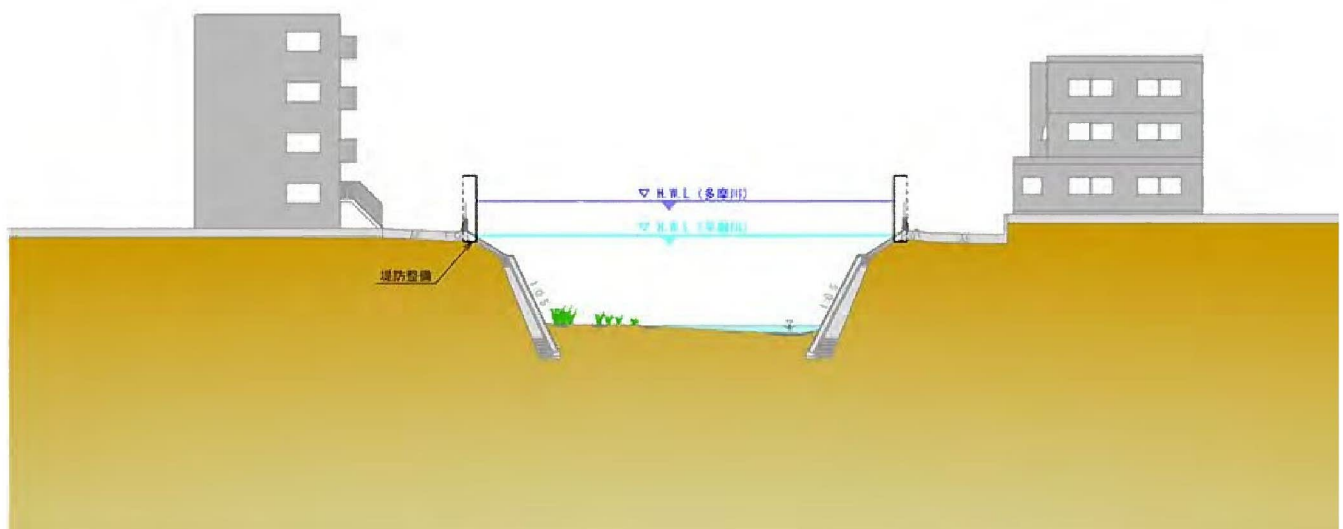
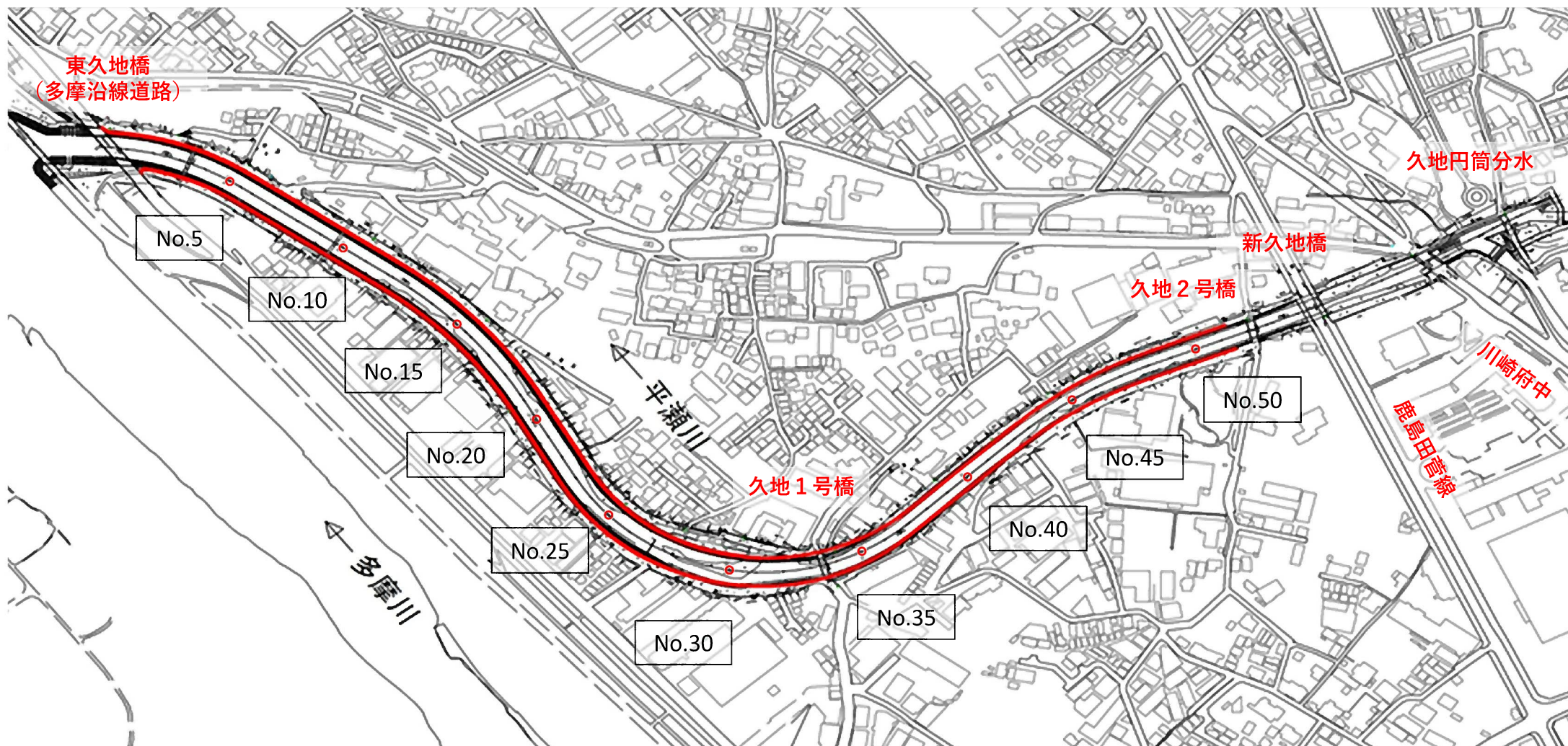


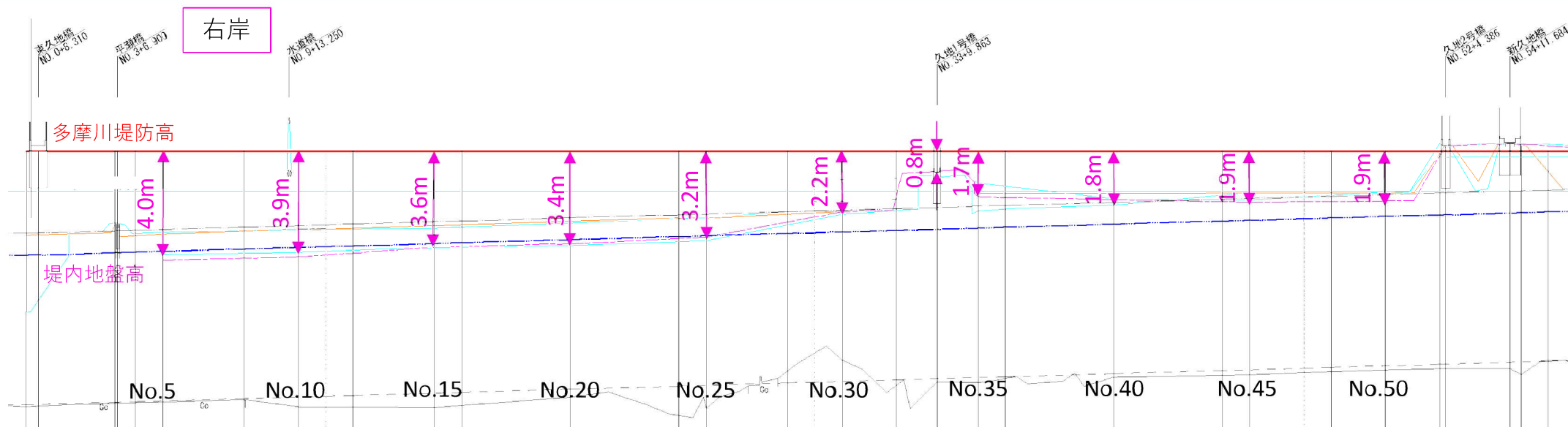
図 4-2 河川整備のイメージ（平瀬川）

平瀬川合流部 平面図（対策範囲）

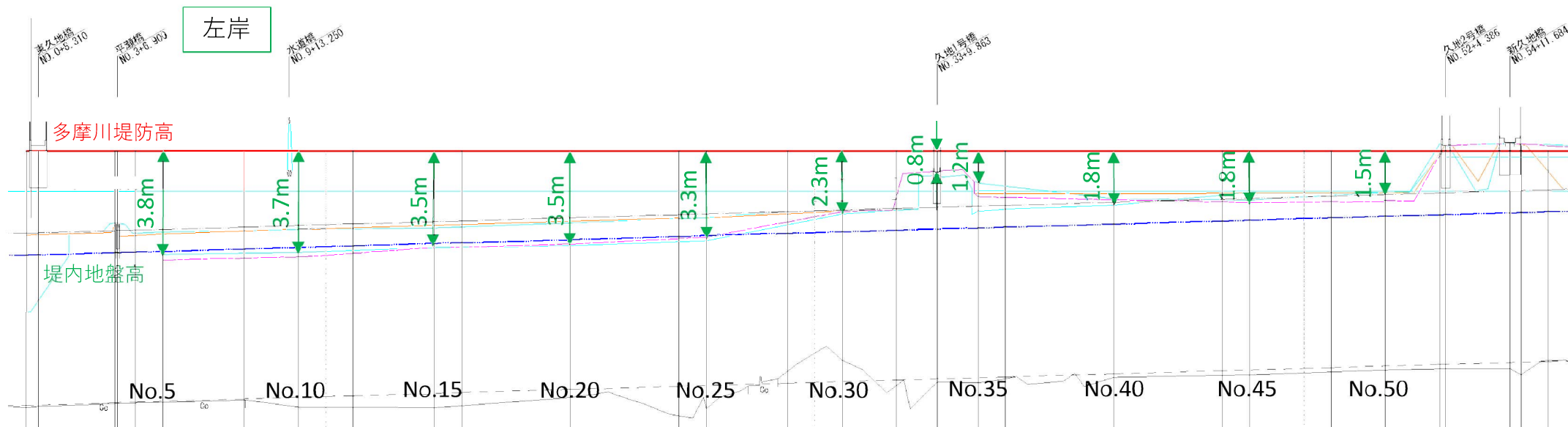


平瀬川合流部 縦断面図（対策高さ）

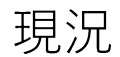
右岸



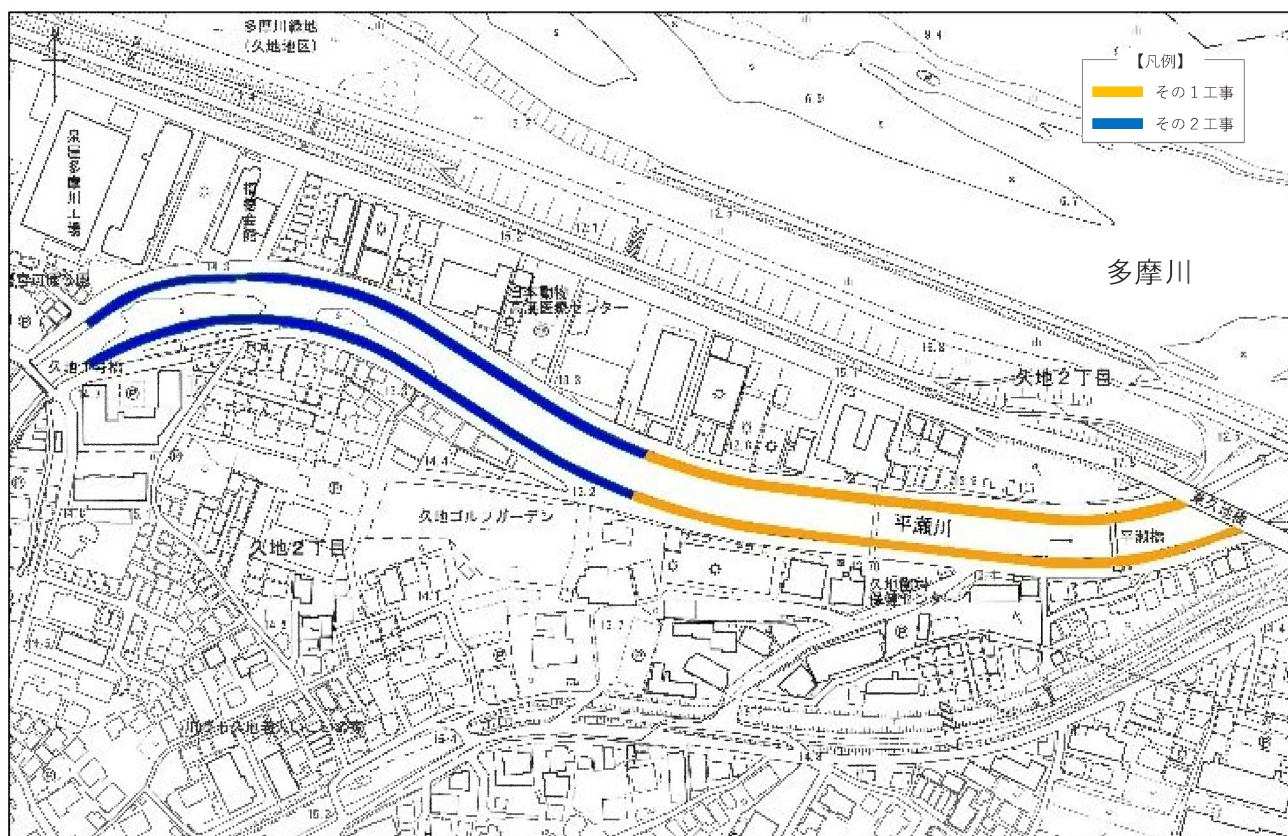
左岸



《例：平瀬川左岸No.5地点》



アクリル板設置（短期対策） 堤防整備のイメージ



令和元年東日本台風 推定ピーク水位

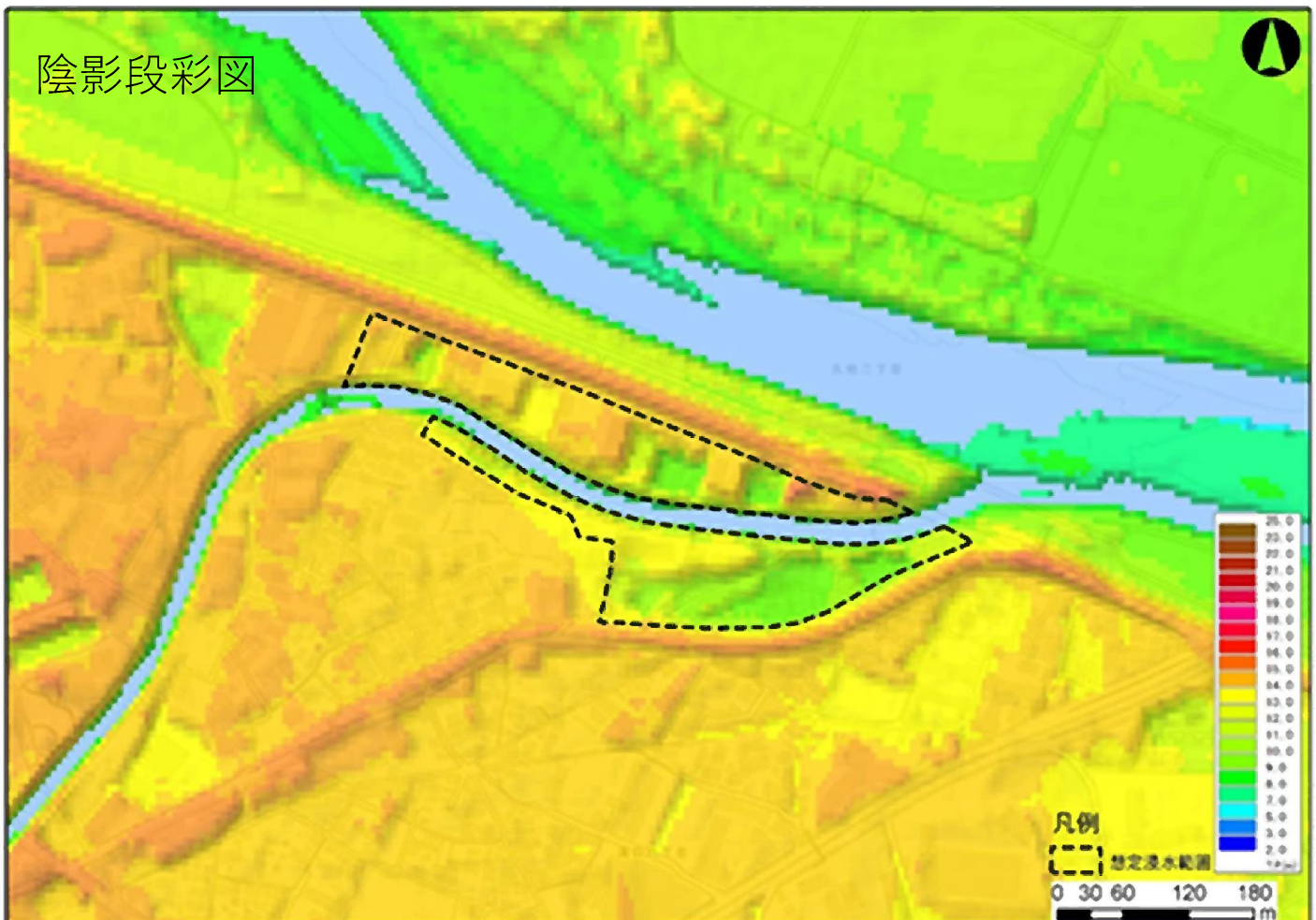
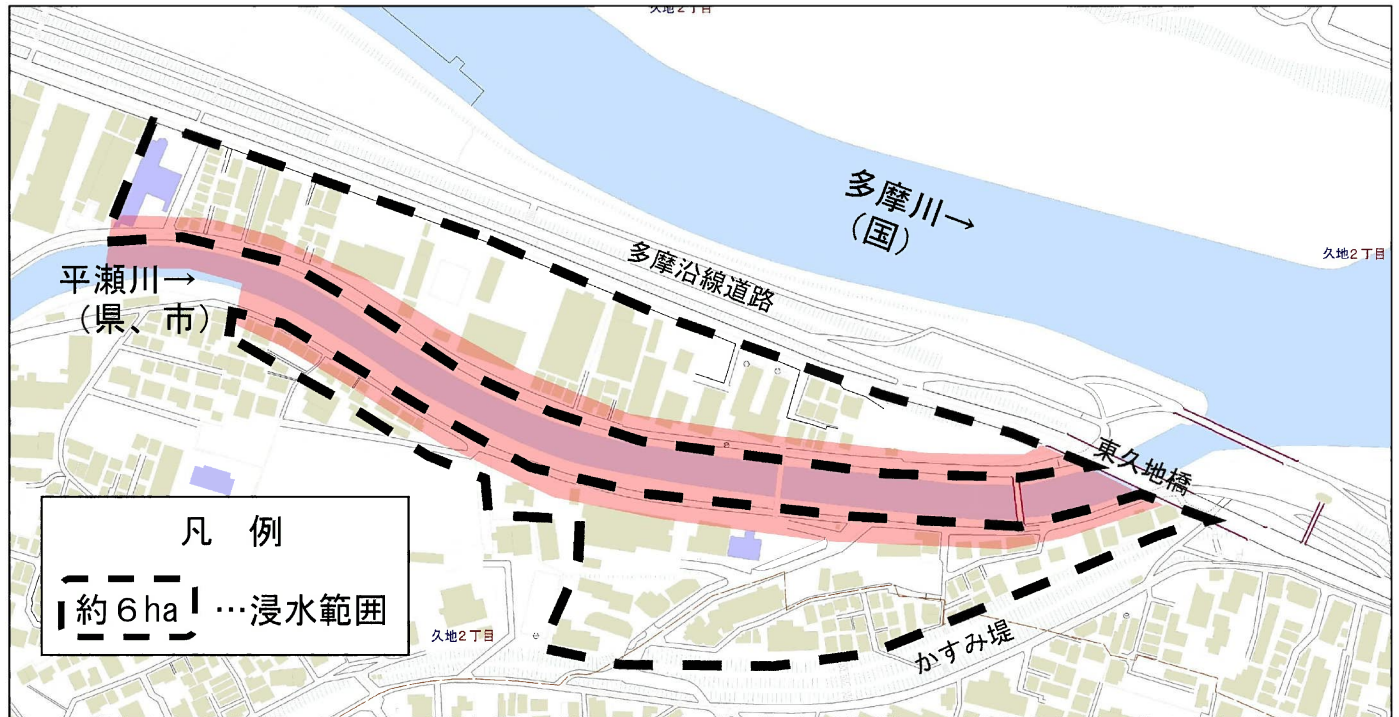


平瀬川(多摩川合流部周辺) 写真



平瀬川(多摩川合流部周辺)
平面図

令和元年東日本台風 浸水範囲（段彩図）



<ご意見に対する考え方>

合流部対策の考え方



合流部対策とはどういうことですか？

本川と支川が合流する箇所で支川に背水が生じる場合に行う対策で、支川処理方式ということもあります。



平瀬川の合流部対策を堤防嵩上げにした理由は？

平瀬川と多摩川の合流部は、令和元年東日本台風により多摩川が計画高水位（河川整備の目標とする水位でこの水位以下の水を安全に流すよう堤防は設計される。）を超える状況の中、平瀬川においても水位が上昇し、平瀬川の堤防から越水したこと等により浸水被害が発生したことから、本河川整備計画（素案）では、地域にお住いの皆様の**安全を第一**に確保することが重要であると考え、多摩川**本川と同程度の堤防高を確保**する「堤防整備（堤防嵩上げ）」を計画しました。



安全を第一に考えての計画ということですね！

今後は、国、県、川崎市で連携しながら、河川整備を進めていくとともに、整備の具体的な内容については、河川の工事を行う川崎市と共に、詳細な検討をしていきます。



<ご意見に対する考え方> 水門及び排水機場について



合流部に水門があれば、多摩川からの背水（影響）は生じないのではないですか？

水門は、多摩川本川からの逆流を防ぐことはできませんが、平瀬川の水の流れを遮断してしまうことから、あわせて排水機場を整備することが考えられます。

水門を閉じた時に、平瀬川からの越水を防ぐためには、大規模な排水機場を整備する必要があり、そのための用地取得にかかる期間を考慮すると、施設が完成し治水効果が発揮されるまでには、多大な時間を要します。



本川からの影響を防ぐだけでなく、支川の水の流れに対しても対策が必要ということですね。

また、令和元年東日本台風時の様に、多摩川本川の水位が計画高水位以上に上昇した場合は、排水機場を停止しなければならず、平瀬川の洪水が処理できずに浸水被害が発生する可能性があります。



排水機場は停止しないといけない場合がある・・・

そのため、本河川整備計画（素案）では、早期の治水安全度の向上が図られる「堤防整備（堤防嵩上げ）」を計画しました。



安全度の向上には堤防整備が必要ということですね！